

# 横浜市立病院等安全管理者会議 看護部会

平成24年 2月 28日

## メンバー:

小山田 富美香(横浜市立大学付属病院)

三浦 百合子(横浜市立大学付属市民総合医療センター)

土橋 道子(横浜市南部病院)

小林 恵美子(聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院)

有山 ちあき・大原 志歩(済生会横浜市東部病院)

柴田 雅子(昭和大学藤が丘病院)

山中 美恵子(昭和大学横浜市北部病院)

渡辺 しのぶ・額田 恵子(横浜市民病院)

中村 啓子・吉楽 初美(脳血管医療センター)

小林 洋子(横浜医療センター)

滝口 由紀子(横浜南共済病院)

三上 久美子(みなと赤十字病院)

富田 達也(横浜労災病院)

以上 16名

# 看護部会活動報告

- 第1回 看護部会

日時 : 7月15日(金) 15:00~17:20

場所 : 横浜労災病院会議室

参加施設 : 8施設参加

- テーマ

1) リスクマネージャーの育成について

2) 安全管理者が関わる事例の範疇について

3) インシデント事例に対して現場から具体策を出すために

# 1) リスクマネージャー(RM)の育成について 主な活動内容

- RM研修会の開催

事務系含む30名～70名の研修

外部講師による講演会

医療安全マニュアル抄読会

患者安全のDVD鑑賞後 意見交換

事例分析GWの実施(4M4E RCAなど)

KYT インシデントKYT

など

# 1) リスクマネージャー(RM)の育成について 意見交換 課題

- ・ 日常業務に加えての活動となるので負担を考慮する必要がある。
- ・ 育成の前に、RMの役割を認識する必要がある。
- ・ 研修の企画運営も大変だが、目的を明確にして評価することが重要である。
- ・ 事前にRMの求めるテーマを考慮して研修を企画する必要がある。
- ・ RM数が多いため、間の役割(事例に関するミーティングや相談ができるメンバー)が必要。

など

## 2) 安全管理者が関わる事例の範疇について 意見交換

いわゆるインシデント・アクシデントなど、医療に関わる過誤だけではなく、様々な報告、相談が医療安全管理者にやってくる。

例) 院内暴力    セクハラ    盗難  
クレーム

過誤ではないが患者に影響のあるもの

例) 採血時の神経損傷  
術後合併症(重症事例)

など

- ほぼ、全病院で医療安全管理者は、  
「よろず相談部署」となっている。

医療安全管理者は、日常から多職種と  
組織横断的に関わっており、様々な報告を受ける。

この問題は、ここに報告。  
橋渡しの役割も担っている。

- \* 病院によっては、感染管理者も担っている。  
専従感染管理者がいても  
病院の危機管理として安全管理者も関わる。

## その他の課題

看護部会のメンバーは、全員病院の医療安全管理者であり、話し合いが看護部に特化した内容に収まらない。

年度末の活動報告は、部会でのディスカッション内容を報告するというかたちでよい、としよう！

# 看護部会活動報告

- 第2回 看護部会

日時 : 11月25日(金) 15:00~17:00

場所 : 横浜労災病院会議室

参加施設 : 8施設参加

- テーマ

1) クリニカルインディケーターへの取り組み

2) 職員への倫理研修

3) 今年度の医療監視(意見交換)



# 1) クリニカルインディケータへの取り組み 各病院での取り組み

- ・転倒転落発生率 患者満足度 褥瘡発生率  
→ 発生件数? = 報告件数となってしまう。  
患者影響レベルも検討する必要がある。
- ・そのほかに、針刺し 患者誤認  
CV刺入時合併症 DVT発生率などもある。
- ・医療の質をはかるデータであり重要である。  
しかし、きっかけがないとなかなか取り組めない。

## 2) 職員への倫理研修

- ・倫理的ジレンマが発生したときどうしたらいいかのフローを作成し、カンファレンスをもって報告がくる。
- ・薬剤の目的外使用に関しては倫理委員会で検討。  
(取り決めのある薬剤もある:ドルミカム、ロヒプノールなど)
- ・倫理研修は積極的に行う必要がある。

これは、医療安全の範疇なのか??

### 3) 今年度の医療監視(意見交換)

医療監視、機能評価など外部監査では  
医療安全管理者の担う役割は大きい。

手術時の異物遺残対策

I、Cの対象者の特定(氏名、続柄まで求められる)  
抑制に関する記録

(開始・解除指示、カンファ記録、観察内容など)  
研修医の記録への上級医記録

など

年間をとおして

集合しての会議は2回しか開催できなかったが、  
様々な経営母体の異なる施設で  
専従の医療安全管理者という同じ立場の者同士  
有意義な意見交換ができた。

また、切迫した課題には、メールなどで意見交換  
できてよかった。

現在は、ほぼ同規模で比較的恵まれた環境であり  
ちがう環境の病院の医療安全についての問題を  
検討する(話し合いの場)必要だと感じる。